

## 『日本の伝統芸能と民族文化財を学ぶ』

(北見真知子先生)

- 《1》 講座：第10回 風流踊(念仏踊)
- 《2》 日時：2026(R08)年02月18日(水)10時~12時
- 《3》 場所：茨木市クリエイトセンター
- 《4》 参加者：受講生:31名、CA:2名
- 《5》 概要：10回目は風流踊(念仏踊)についての講義でした。

はやいもので、今期の講座は今回で最終回となりました。今回も映像をふんだんに交えながら、分かり易く講義いただき、風流踊について理解を深めることができました。

なお、風流踊は2022年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。



### 《6》 風流踊の読み方について。

- ① 「風流」は通常「ふうりゅう」と読みますが、今回の「風流」は「ふりゅう」と読み、「ふうりゅう」とは区別します。
- ② 「ふうりゅう」と「ふりゅう」の違い (日本国語大辞典)  
『ふうりゅう』：雅・わび寂などの文芸的美意識  
『ふりゅう』：囃子や踊り・装飾を伴う祭礼文化系の表現
- ③ なお、驚くことにこの二つは、1600年代に区分されていた。  
『日葡辞書(につぼうじしょ)』：1603年ころ、イエズス会が長崎で発行したポルトガル語による日本語辞書  
『ふうりゅう』：優美な衣類のように目に楽しく優美なこと  
『ふりゅう』：囃し物を伴う踊り。または、あらゆる踊り・



## ≪8≫風流踊と念仏踊

### 風流踊

- ア) 鎮魂・鎮送：盆踊・念仏踊
- イ) 太鼓踊など：豊作祈願・雨乞い
- ウ) 山鉦・傘鉦：祇園系風流

念仏踊は、空也、一遍により「踊る宗教」へと変化。

(踊りは、法悦が極まるところ自然に起こる動作)

## ≪9≫ 「踊り念仏」と「念仏踊り」

「踊り念仏」は、踊り手が鉦を打ち、念仏などを称えながら行う「宗教儀礼」

「念仏踊り」は、念仏などを称え、鉦・太鼓などを鳴らしながら踊る、踊りが主となった芸能。「踊り念仏」から展開した。

「中堂寺の六斎念仏(京都)」の映像を鑑賞した。

## ≪10≫

- ① CAさんから、oncc 来年度の現時点で入学可能な教室の案内がありました。
- ② 本ブログの写真の一部は、CAのK様よりご提供いただきました。
- ③ 今日は最終回なので、講師（北見先生、玉田先生）を囲んでの食事会を実施しました。
- ④ 最期に、一年を通じての教室運営、見学会（山本能楽堂、彦根城・博物館）、食事会を滞りなく実施いただいた二人のCAさんに感謝いたします。  
苦労を表にださず、いつも冷静・笑顔で接していただき、ありがとうございました。

(ブログ担当：5班i)